

# FS山行

## 貫気別山 (1317m)

2017年2月25日～26日

L山本 M千葉 飯田（元会員）

日高の新冠湖の西側に位置する貫気別山とリビラ山を登る予定だったが、初日地図を確認せずルートを誤ったり、沢の渡渉などに手間取り、結局時間切れで貫気別山のみを往復してきた。

しかし貫気別山の山頂から、日高山脈の主稜線を一望することができ満足した山行だった。



### 【2月25日】

6:00 千葉宅

8:40 conta320m 車デポ地発

10:00 conta420m 引き返し

10:30 リビラ川二股

11:10 conta410m

13:18 二股尾根取付

16:30 conta710mC1

### 【2月26日】

4:00 起床

6:00 C1 発

9:18 稜線コル

10:15 山頂

10:27 下山

11:15 稜線コル

12:50 C1着

13:47 C1 下山

17:50 車デポ地着

### 2月25日



道道71号線から貫気別川沿いに conta320m の橋の手前で車をデポする。鹿撃ちのジープはさらに除雪されていない林道を雪をかき分け conta350m の二股の先まで行っていた。リビラ川との二股は砂防ダムがあり開けている。本来なら、ここで凍った川を渡って左股に行くはずだったが、ジープの轍に気を取られ右股を行ってしまう。再度、リビラ川二股まで引き返し左股に行く。左股沿いの林道は荒廃しており数回の渡渉をしいられた。conta470m の二股から貫気別山とリビラ山の稜線の1300m のコブからの西尾根末端に取り付く。物凄く急峻な斜面で途中シートラして抜ける。下山の時にわかったが尾

道道71号線から貫気別川沿いに conta320m の橋の手前で車をデポする。鹿撃ちのジープはさらに除雪されていない林道を雪をかき分け conta350m の二股の先まで行っていた。

リビラ川との二股は砂防ダムがあり開けている。本来なら、

ここで凍った川を渡って左股に行くはずだったが、ジープの

轍に気を取られ右股

を行ってしまう。再

度、リビラ川二股ま



根の右側から取り付くとシートラシなくても登れる急峻な斜面があった。尾根上は松で密集しており、松の重たいカーテンをかき分けながら進む。

結局、二股から高度差 240m 程登った conta710m の比較的平らな稜線上で時間切れとなる。



## 2月26日



昨日の遅れを取り戻す

べく、朝6時の薄暗いうちから行動を開始する。

急な尾根をひと登りすると視界が広がり、目前に貫気別山の大ガンケが姿を現す。まるで、「おばQ」のような様相で圧倒される。

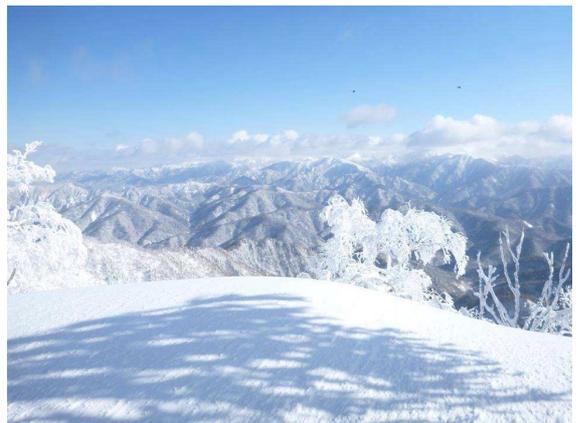
貫気別山とリビラ山の稜線出ると、日高山脈の主稜線が一望できる。

細い稜線を貫気別山目指すが、右側に雪庇が張り出しており、気が抜けない。真っ白に彩られた樹氷の中を快適に行く。幻想的な景色に気を許していると、突然、轟音が響き私の右足のスキーエッジにそって雪庇が大崩壊した。腰が抜けそうになりながら樹林帯に逃げるが崩壊した場所は垂直に近い雪壁で、一緒に滑落していたらとおもうと「ぞーっ」とした。

山頂はなだらかな頂きだった。日高山脈の山並みを目に焼き付けた。リビラ山は意外と遠く感じる。

稜線コルに戻った時には11時を回っていたので、ここで下山を決意する。

C1 まで尾根が細く急なのでスキーの下手な私には一苦労だった。テントを撤収し、下山を開始するとブル道が現れ、それに沿ってスキーを滑らす。最後の二股まで高度差 150m の地点でブル道を見失う。斜面が比較的緩やかで雪がついている斜面を探しながら下ると、二股の取付き尾根の右側にでた。



そこから、スノーブリッジを渡り、対岸を行くと夏道が現れる。ほとんど傾斜がなく所々道が崩壊しているため、暫くはシールを取り付けて下る。車のデポ地についた時は、18時になろうとしており、さすがに周辺は暗くなっていた。12時間に及ぶ行動となり、標高は低いですが日高の山であるとあらためて感心させられた。初めての山域であり非常に満足した2日間であった。

(山本 記)